

上映&トーク「カン・ヒジンの世界」

日時: 8月4日(土)
13:00の短編プログラム1上映終了後

ゲスト: カン・ヒジン (『花咲く手紙』監督)

*日本語通訳あり

済州島の海女にインタビューした『お婆の海』、脱北した女性の日常と思いを綴った『花咲く手紙』と、2作続けて心にしみるドキュメンタリー・アニメーションを発表したカン・ヒジン監督。韓国の民間信仰を紹介した最新作『お守りの意味』も含め、その作品世界に迫ります。

カン・ヒジン



祥明大学校アニメーション学科卒。在学中よりインディ・アニフェストのリレー・アニメーションに参加。2012年、卒業作品として『お婆の海』をハン・アリョムと共同制作。2016年『花咲く手紙』、2018年『お守りの意味』を発表。現在 Teacup Studio を運営。フリーランスとしても活動中。

上映作



『お婆の海』



『お守りの意味』

[字幕翻訳 愛知淑徳大学字幕制作チーム/監修 三重野聖愛]

上映&トーク「ボーダーを越える作家たち〜アニメーションのインディ系制作最前線」

日時: 8月5日(日)
12:00のアジア短編プログラム上映終了後

ゲスト: 伊藤裕美 (オフィスH代表)

多国間共同制作・留学・レジデンス・ピッチ・助成金などを通じて、ボーダーレスに制作される作品が増えています。代表例が、アメリカ人と日本人の監督がフランスのプロデューサーと組んで作った、米アカデミー賞候補作『Negative Space』(アジア短編プロ上映作)。同作のマックス・ポーター、桑畑かほる監督が自主制作した短編3作品を上映し、両監督の制作活動をよくご存じの伊藤裕美さんに、欧州を中心としたインディ系制作事情を伺います。

上映作



『サムシングレスト・サムシングテイクン』
(アメリカ/2010年)



『ビトイン・タイムズ』
(アメリカ、オランダ/2014年)



『Perfect Houseguest』
(アメリカ/2015年)

伊藤裕美



オフィスH(あしゅ)代表、一般社団法人アニメーターニングらぼ共同代表理事。2012年『はちみつ色のユン』を配給。2011・2016年、主催事業「WAT-世界のアニメーションシアター」でマックス・ポーター、桑畑かほる監督作を上映。現在、アニメーションを学習とコミュニケーションのツールに活用する「アニメーターニング」の普及に取り組んでいる。

※ 8/4(土) 15時より大須のシアターカフェで、伊藤さんによるアニメーターニングの説明会があります。

Schedule

8月4日(土)

13:00 短編プログラム1「場+幻想」
+上映&トーク「カン・ヒジンの世界」
15:15 短編プログラム2「記憶+時間」
16:45 短編プログラム3「心+体」
18:15 アジア短編プログラム「アジアへの扉」

※ 8月4日(土) 20:00より交流会を予定。
詳細はお問い合わせください。

8月5日(日)

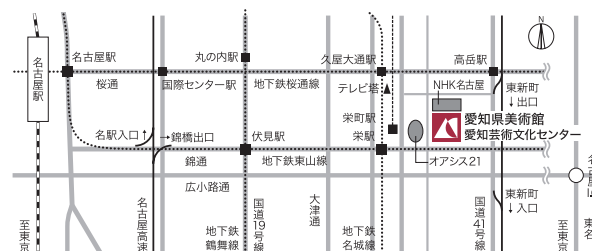
12:00 アジア短編プログラム「アジアへの扉」
+上映&トーク「ボーダーを越える作家たち」
14:30 短編プログラム3「心+体」
16:00 短編プログラム2「記憶+時間」
17:30 短編プログラム1「場+幻想」

■チケット(当日券のみ)

1プログラム: 一般1,000円/高大生500円/中学生以下 無料

■お問い合わせ シネマコリア (西村) TEL 090-1863-7855

Access



愛知芸術文化センター 12階 アートスペースEF

名古屋市東区東桜 1-13-2 TEL 052-971-5511 (代)
地下鉄・東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩3分
(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)

主催: 韓国インディペンデント・アニメーション協会 (KIAFA)
シネマコリア
愛知県美術館



AICHI ARTS CENTER



後援: 大韓民国文化体育観光部
駐日韓国大使館 韓国文化院
愛知淑徳大学 全学韓国・朝鮮語教育運営委員会/交流文化学部
日本アニメーション学会
日本アニメーション協会
日本映像学会中部支部

協力: ANIMATION TAPES
新千歳空港国際アニメーション映画祭
韓国コンテンツ振興院 (KOCCA)

Korea Independent Animation Film Festival

花開くコリア・アニメーション2018+アジア

★韓国・アジアから世界を観る★

脱北した女性のドキュメンタリーから、米アカデミー賞ノミネート作まで。
韓国短編29本とアジア短編9本、一挙上映!



2 Days!

2018.8.4 Sat - 8.5 Sun

Place: 愛知芸術文化センター 12階 アートスペースEF

1プログラム: 一般1,000円/高大生500円/中学生以下 無料

花コリ公式サイト <http://www.anikr.com>

最新情報はTwitterをフォローしてゲット! @hanakoriJP

花コリ facebook ファンページ

<http://www.facebook.com/koreananimation>



花開くコリア・アニメーション2018+アジア

*全プログラム日本語字幕付き

“花コリ”の愛称で親しまれ、名古屋での開催は9回目となる「花開くコリア・アニメーション2018+アジア」。今年も韓国のインディーズ・アニメーション映画祭「インディ・アニフェスト」最新上映作から厳選した韓国短編29本を3プログラムで、また同映画祭のアジアコンペ部門上映作から9本の秀作短編を1プログラムでお届けします。韓国からのゲストは、脱北した若い女性2人の現在の思いを綴ったドキュメンタリー『花咲く手紙』のカン・ヒジン監督です。また、米アカデミー賞にノミネートされた話題作『Negative Space』のマックス・ポーター、桑畑かほる監督の短編3作品を特別上映し、桑畑監督をよく知る伊藤裕美さんによるトークを開催します。本年は愛知淑徳大学と協同し、字幕翻訳など学生参加プロジェクトもスタート。日韓の若き才能が集う空間“花コリ”にご期待ください。

たドキュメンタリー『花咲く手紙』のカン・ヒジン監督です。また、米アカデミー賞にノミネートされた話題作『Negative Space』のマックス・ポーター、桑畑かほる監督の短編3作品を特別上映し、桑畑監督をよく知る伊藤裕美さんによるトークを開催します。本年は愛知淑徳大学と協同し、字幕翻訳など学生参加プロジェクトもスタート。日韓の若き才能が集う空間“花コリ”にご期待ください。

短編プログラム 1

場+幻想

69min/8作品

インディ・アニフェスト2017大賞『Here Winter』、KIAFA特別賞『華麗なる外出』など、「ある場所」と「想像」の物語をセレクト。ソウルの観光スポットが楽しめる『バシャッパシャッ』は、2016年のゲスト、キム・ヘミ監督作。



『Here Winter』
イ・ギョテ/2017/6:23



『ミス・ロマンス』
ハン・ピョンア/2017/7:20



『華麗なる外出』
アン・ヒョンヘ/2017/10:00



『公園で会いましょう』
チェ・ミヘ/2017/4:31



『花咲く手紙』
カン・ヒジン/2016/11:00



『無人都』
チョ・ミンジ/2016/3:15



『バシャッパシャッ』
キム・ヘミ/2017/6:17



『かかしの島』
パク・ヘミ/2017/18:40

《インディ・アニフェストとは?》
韓国インディペンデント・アニメーション協会 (KIAFA) が主催する韓国唯一のインディーズ・アニメーション映画祭。「花コリ」はその日本巡回上映会。韓国アニメーション作家の登竜門であり、『新感染』『ソウル・ステーション』のヨン・サンホなどを輩出。2016年にアジアとの交流を目指しアジアコンペ部門を新設。インディ・アニフェスト2017のカatalogと受賞作DVDは当日会場で販売!

短編プログラム 2

記憶+時間

68min/10作品

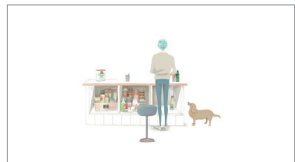
インディ・アニフェスト2017学生部門優秀賞『星が輝く夜に』、デビュー賞『シーソー』など「思い出」と「歳月」についての短編集。審査委員特別賞『The River』は、南北軍事境界線上の川で起きた出来事を描く。



『休日の平和』
7名の作家/2017/4:35



『シーソー』
チャ・ユギョン/2017/9:39



『You Are My Sunshine』
ファンボ・セビョル/2016/8:52



『母とカクウ時計』
ユ・ジェヒ、ミン・ジヘ/2017/3:28



『ドアスコープ』
ハ・スファ/2016/3:09



『2人の女』
オム・ヒョナ/2017/3:54



『お月さま、どこにいるの?』
ペク・ミヨン/2017/6:40



『The River』
キム・ヒソン/2016/8:36



『BIG FISH』
パク・ジェボム、キム・ジョンソク/2017/8:14



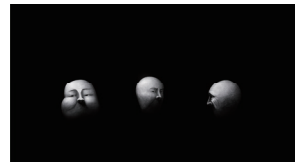
『星が輝く夜に』
イ・ジョンファン/2017/9:05

短編プログラム 3

心+体

67min/11作品

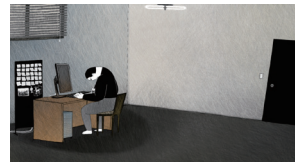
インディ・アニフェスト2017一般部門優秀賞『深心』、観客賞『RAINBOW』、躍動感あふれる鼻炎アニメーション『(OO)』、就活整形を描いた『鼻』など「心の中」と「身体」をテーマにした作品集。



『678』
パク・ウンジン/2017/7:32



『偉大な手とブルガサリ』
キム・ミネ/2017/5:55



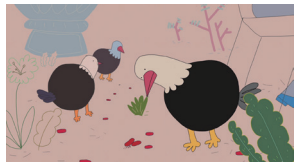
『情けなくて、すみません』
チャン・ナリ/2017/1:58



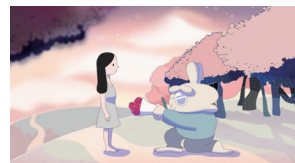
『CONNECT』
ソ・ヒジョン/2016/4:02



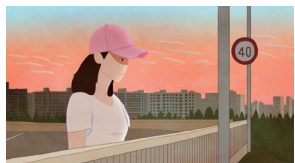
『深心』
キム・スンヒ/2017/3:30



『都会の鳩がぷくぷく太る理由』
イ・ヨンジョン/2017/3:20



『Manimals』
オ・ジヒョン/2017/4:54



『鼻』
キム・ジュイム/2017/8:38



『À l'abri』
シン・ジンギュ/2017/6:41



『(OO)』
オ・ソロ/2017/3:03

アジア短編プログラム

アジアへの扉

65min/9作品

インディ・アニフェストのアジアコンペ部門上映作から、同部門大賞『黒』、審査委員特別賞『Negative Space』など9作品を選定。ドメスティックな作品やボーダーレスに制作された作品から「アジアの力」を感じてほしい。



『Tough』
Jennifer ZHENG/2016/4:49/
中国、イギリス



『Negative Space』
マックス・ポーター、桑畑かほる/2017/5:30/
日本、アメリカ、フランス



『夜遊び』
黄亮昕/2017/04:46/台湾



『それぞれの時間』
Ninaad KULKARNI/2017/2:50/
インド、アメリカ



『基石』
邱士杰/2017/7:10/台湾



『FLOAT TALK』
仲井希代子/2016/13:58/日本



『理髪店』
Ediz ANAVI/2017/2:24/トルコ



『悪い子』
Ayce KARTAL/2017/8:00/
トルコ、フランス



『黒』
Tomasz POPAKUL/2016/14:00/
日本、ポーランド

リレー・アニメーション『休日の平和』

- イ・ギョンファ
- ハン・ピョンア
- チェ・ハニ
- キム・ウネ
- イ・ジユン
- 山田耕司
- キム・ヨンジョン



多数の作家がリレー形式で映像をつなぐ、リレー・アニメーション。8回目の今年は、詩人シム・ボソンの作品『休日の平和』から、詩情あふれる作品が出来上がりました。シム氏ご本人による朗読とともに、作家たちの自由な想像力でつづられた「平和」のかたち。観客と共有し、それぞれの「平和」を心に描いてほしい、という願いが込められています。

● 短編プログラム2にて上映



『RAINBOW』
カン・ヒギョン/2017/16:00

★今年のトレーラー★

各プログラムの冒頭に上映される、映画祭トレーラー。今年は「インディ・アニフェスト2016」で大賞を受賞した『父の部屋』のチャン・ナリ監督(短編プログラム3『情けなくて、すみません』)が制作しました。

